

手摺支柱足元部の補修

ボンド TS-RMグラウト工法

高流動化したエポキシ樹脂モルタル注入補修工法

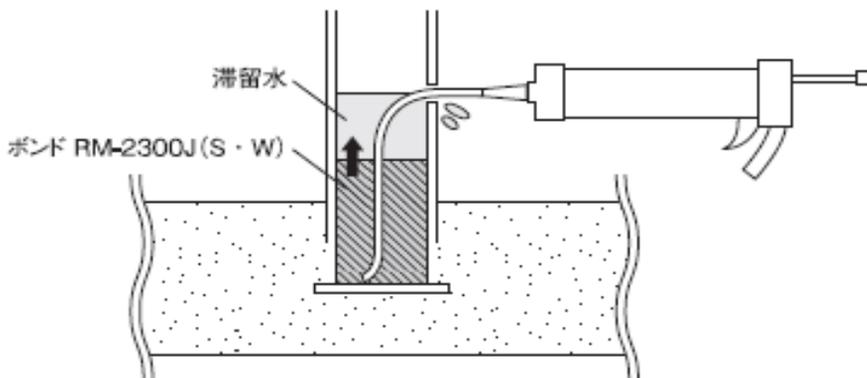
省工程

手摺支柱足元部をエポキシ樹脂モルタルにて注入補修

ボンド TS-RMグラウト工法は...

- 手摺り支柱の足元中空内部へ滞留している水を除去しながらエポキシ樹脂モルタルを充てんすることにより、手摺り足元の経年劣化進行を抑制し、補強する工法です。
- エポキシ樹脂モルタルの特性(反応熱の抑制効果、低収縮、充てん接着性、高強度)を保持し、注入施工性に優れ、手摺り支柱が補強されます。
- 湿潤面や水中下においても施工が可能なエポキシ樹脂を、中空支柱の底部より滞留水を置換しながら注入して滞留水を注入口より排水するため、滞留水を事前除去することなく施工が可能です。
- 施工後、注入口を排水口として使用することにより、将来における水の滞留を防止します。
- 施工時、足場を必要としません。ベランダ側から施工が可能で工期も短縮されます。

※ 詳細は、弊社担当営業窓口までご確認ください。



支柱への穴開け

支柱に空ける穴は、強度への影響を考慮してφ10mm以下の穴を開ける。

充填材(エポキシ樹脂モルタル)の混合

E2300Jを規定配合比で混合した樹脂とRM骨材を1:1で混合

充填材の注入(1回目)

チューブの先端を支柱内部の底部に臨ませ、底部よりエポキシ樹脂モルタルを充てんする。

充填確認

支柱内部に滞留している水が注入したエポキシ樹脂モルタルにより置換えされ、注入口周辺より排出されることを確認する。

充填材の注入(2回目)

注入後安定するまでに躯体のひび割れ等に浸透して目減りすることがあり、目減りした場合は継ぎ足す等して注入穴の下端まで注入する。

穴あけ部処理、養生

支柱に空けた穴は、支柱内の乾燥を維持し排水口として使用するために、穴小口の防錆処理を行ったうえで開放のままとし、養生する。